

いろいろなしかけに挑戦

手作りしかけ絵本教室

しかけ絵本づくりを通じて、本の楽しさやものをつくる喜びを知ってほしいことから「手作りしかけ絵本教室」が、7月31日に美郷町住民活動センターで開催されました。

当日は21名の親子等が参加し、講師の嵐田康平さんから、しかけ絵本の基本となる仕組みを教わりました。参加した皆さんは、教わったしかけに自分のアイデアやイラストを加えるなど、オリジナルしかけ絵本の作製に夢中になって取り組んでいました。



■嵐田康平さん



町内ごとに彩られた舟を引く

舟ッコ流し

六郷地区の七夕行事「舟ッコ流し」が8月7日に御伊勢堂川で開催されました。笹竹や短冊に彩られた舟を引きながら、8町内の親子たちが「ヤンセ、セヤホ、オセドノ舟ッコ」の掛け声とともに川を練り回りました。

今回も大盛況

美郷夜市

ことしで6回目の開催となる「美郷夜市」が8月11日に開催されました。当日は、美郷中学校吹奏楽部のパレードで始まり、みこしの練り回りやステージ出演者による演技披露、キッズダンスなどが行われ、最後は大抽選会で締めくくられました。会場は、子どもから大人までたくさんの来場客でにぎわいました。



～「翔」はばたけ～

二十歳の集い

ことし4月に成年年齢が引き下げられたことを受け「成人式」から名称を変更した「二十歳の集い」が、8月15日に美郷町公民館で開催され、美郷中学校の第5期卒業生117名が参加しました。3年振りに一堂に会する形式での開催となった今回、式典では参加者を代表して佐藤優奈さんが「感謝の気持ちを忘れることなく、これからは自らの行動により責任を持ち、一人の大人としてそれぞれが思う未来へ、はばたいていきます」と謝辞を述べました。その後、澁谷デザイン事務所の代表である澁谷和之氏による記念講演も行われ、参加者へお祝いの言葉が贈られました。

式典終了後の第2部では記念映像が放映され、小中学校の思い出の写真や恩師からのメッセージなどが映し出されると、会場は大いに盛り上がりました。



■佐藤優奈さん



■澁谷和之氏

MISATOPICS

町の話



美郷町学友館特別展 秋田魁新報連載 大川 清一「北東北 山々の輝き」

美郷町在住の写真家・大川清一氏。大川氏は、鳥海山、八幡平、和賀岳など北東北の山々を舞台に、山岳写真を撮り続けています。本展では、秋田魁新報に掲載中の大川氏が、にちよう学芸館「北東北 山々の輝き」で紹介した写真を中心に、新たに撮り下ろした本町の真昼岳と本人の撮影エピソードを交え展示しています。作品を通して四季折々の美しい原風景が目の前に広がります。この機会に、山々の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

開催期間◆9月25日(日)まで 会場◆美郷町学友館

開館時間◆午前9時～午後5時
※入館は閉館30分前までです。
休館日◆毎週月曜日、9月20日(火)
※9月19日(月)は開館します。
入館料◆一般:300円(10名以上の団体は、1名につき200円)
高校生以下:無料
※10名以上で入館の場合は事前連絡が必要です。
特別協賛◆株式会社秋田魁新報社
協力◆大川 清一氏

問●美郷町学友館 ☎0187(84)4040

対応の変化

COLUMN WINDS

コラム

風

美郷町長
松田 知己

遡ること四十数年前。高校生だった私がそれを目にした際、クスッと笑ったことを記憶しています。家が酒類小売店でよく飲料メーカーの機関誌が届いていましたが、その中にあったキャッチコピーです。「破れた恋と空き缶はくず籠へ」。ポイ捨て禁止の主旨ですが、いいコピーだと思いませんか？誤解を招かないために申し添えれば、当時私がそうした状況にあった…わけはありません。

この作品、改めて見直してみると、環境への時代認識も見えてきます。昭和五十年代はごみの分別が充分でなく、それがこの作品に反映されているように思えます。例えば今風に作り変えてみると、「破れた恋と空き缶はそれぞれのゴミ箱へ」となるのでは

ないでしょうか。現在は環境負荷軽減のため、ごみ分別が当たり前です。やはり「対応は時代に沿って変化するものだ」と思うところです。

さて、今月19日は「敬老の日」です。これまでご苦勞を重ね、今日の地域社会を築いてこられた方々に敬意を表す日です。本来、年齢を区切らず高齢者を敬うべきですが、社会活動への参加状況や対象者数などを踏まえ、町では基準日において満75歳以上の方を敬老対象者としてきております。ここ2年間を除き、例年は対象者にご案内を差し上げ、各地区で式典を行ってきておりますが、最近では敬老記念品を受け取りに来られても、式典には参加されない方が多い傾向にあります。

した。これも時代の流れかなと思うところです。

そこで町では、今後の敬老会のあり方をどうすれば良いか検討してきましたが、今回から開催スタイルを変えることにしました。ささやかですが、敬老記念品はここ2年間と同様、対象者全員に宅配便でお届けします。そして、式典は行わず、代わりに楽しめる機会として、希望者の参加申し込みによる敬老記念行事を開催することにしました。これまでの状況を踏まえた対応の変化について、どうか関係みなさまのご理解をお願いいたします。

私は今月1日で満59歳。年齢に合わせて私も変化中です。差し当たり早寝早起きへの移行ですが、実のところ必然的にこうなりました。意図した変化でないところが実は悔しいところです。



▲学友館特別展「大川清一「北東北 山々の輝き」」オープニングセレモニーであいさつをする松田町長